



今年の夏休みも記録的な猛暑日が続く大変厳しい日々でした。そのような中でも生徒達は、それぞれ目標を持って、有意義に過ごしてくれたことと思います。保護者並びに地域の皆様には、夏休み中も様々な面で生徒達を見守り支えていただきありがとうございました。生徒達も安心して2学期を迎えることができている。まだまだ残暑の厳しい日が続きますが一日も早く生活のリズムが整いますよう、ご家庭でのお声がけをお願いいたします。学校におきましても、生徒達の健康管理に努め、また、熱中症予防対策等も万全にしていきたいと思っております。引き続きよろしくをお願いいたします。



2学期は1年の中でも最も長い学期です。勉強や部活動、そして文化発表会や体育大会のような行事など、多くのことに挑戦して成長できるチャンスです。また、3年生にとっては進路実現に向けての動きが本格化していきます。「自分で考え、自分から行動する」ことを大切にしながら、一人ひとりが自分の目標に向かって努力して、充実した日々を送ってほしいと思っております。

朝の連続テレビ小説で、「アンパンマン」の作者であるやなせたかしさんとのおぶさんの夫婦をモデルとしたドラマが放送されています。戦争という困難を経て、「アンパンマン」を誕生させるまでの愛と勇気の物語だそうです。

「強いからヒーローなんじゃない 喜ばせるからヒーローなんだ」

これはやなせたかしの言葉です。アンパンマンは未だに幼児達に絶大な人気を誇るヒーローですが、作者のやなせたかしさんによると、「世界最弱のヒーロー」だそうです。アンパンでできた顔が水で濡れたり、変形したりするとパワーが出なくなります。ジャムおじさんに助けを求め、新しい顔をもらわないと戦えません。しかし、荷物が重くて困っている人を見つくと、助けに行きます。さらに、お腹をすかしている人を見たら、自分の顔を食べさせてお腹をいっぱいにしてあげます。自分が弱ってしまうとわかっている、助けずにはられないのです。アンパンマンのすごいところは、それだけではありません。いつも意地悪してみんなを困らせるバイキンマンでさえ、困っていたら助けてあげるのです。やなせたかしさんは、本当の正義の味方とは、悪者を倒すことよりも、「困っている人を当たり前のように助けたり、親切にしてあげたりすることができる、すぐ近くにいる普通の人」と言っています。

そんな心優しいヒーローが誕生した背景には、やなせさんの戦争体験があったそうです。21才で戦争に召集され26才まで軍隊で過ごされました。戦争が激しくなるにつれて食料が不足し、道ばたに生えている雑草を食べて過ごされたそうです。さらに帰国後は弟さんの戦死という悲痛な出来事もあり、こうした戦争体験がアンパンマンの誕生につながります。

実は小学校5年生の国語の教科書に「やなせたかしーアンパンマンの勇気」という読み物教材があります。出だしは、東日本大震災の時に被災地のラジオで流れていた「アンパンマンのマーチ」のことから始まります。避難所の子どもたちが、「アンパンマンのマーチ」を大合唱していたというニュースが報じられます。当時やなせたかしさんは、92才でしたが、そのニュースを知り、「ぼくも何かできることをしなければ」と、力を奮い起こしたといっています。

本校の目指す生徒像には、『友愛』～他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒～があります。自分が他者を思うことができれば、自分も他者に思われます。相手を思いやり、困っている人に手をさしのべられる、そんな木津第二中学校の生徒であってほしいものです。



学校の図書室にある
「やなせたかし物語」

2025(令和7)年8月15日に、1945(昭和20)年の終戦から80年を迎えました。1945年8月6日広島に、原子爆弾が落とされ、8月9日には長崎にも同じ爆弾が落とされました。大変多くの方が亡くなりました。またケガをしたり家族や友だちと離れ離れになったり、とても辛く悲しい思いをしました。今この時にも戦争をしている国があり、ニュースを通して「核兵器」「ミサイル」というドキッとさせる言葉を耳にしたりと、戦争は過去の遠い話ではなく、私たちのすぐ近くにいます。だからこそ「戦争」について知ったり、「平和」や「命」についてしっかりと考えなければなりません。